

「HAKUI キッズイングリッシュキャンプ」

- 1 趣旨 仲間との英語を用いた体験活動を通して、楽しく音声や基本的な表現に慣れ親しむ。また、安心できる温かい環境の中で、自分の考えや気持ちを英語で表現し、積極的にコミュニケーションを図る素地となる能力の育成を図る。これらのことが自信となり、日常生活において主体的に英語でコミュニケーションを図ることにつなげることをねらいとする。

2 日程・内容

(1) 期日・参加者等 ※複数校で、5・6年生に分かれて合計 4 回実施

	期日	参加校	児童	国際交流員・ALT	ボランティア
第1回	9月 6日(水)・7日(木)	羽咋小・邑知小(6年生)	55・25 名	6・2 名	1 名
第2回	9月12日(火)・13日(水)	羽咋小・邑知小(5年生)	61・20 名	6・2 名	3 名
第3回	9月14日(木)・15日(金)	粟ノ保小・西北台小 ・瑞穂小(6年生)	9・15・24 名	4・2 名	5 名
第4回	9月21日(木)・22日(金)	粟ノ保小・西北台小 ・瑞穂小(5年生)	16・7・28 名	4・2 名	1 名

(2) 活動内容

<6年生>

1日目		2日目	
9:00	Opening ceremony【1時間】 アイスブレイク 「世界にある魅惑的な寺院」(妙成寺見学)【2時間】	9:00	アイスブレイク【0.5時間】 共通プログラム【3時間】 「現地の食材を探しに世界へ」 《Entry to a country check》
12:00	昼食(持参弁当)	12:30	昼食(食堂)
13:00	共通プログラム【2.5時間】 「世界で遊ぼう」 《Become a game master!》	13:15	振り返り
15:30	振り返り	13:30	Closing ceremony
16:00	帰路	14:00	帰路

<5年生>

1日目		2日目	
9:00	Opening ceremony【1時間】 アイスブレイク 「世界にある魅惑的な寺院」(妙成寺見学)【2時間】	9:00	アイスブレイク【0.5時間】 共通プログラム【2.5時間】 「現地の食材を探しに世界へ」 《Shopping Games》
12:00	昼食(持参弁当)	12:30	昼食(食堂)
13:00	共通プログラム【2.5時間】 「世界で遊ぼう」 《Enjoy the game!》	13:15	振り返り
15:30	振り返り	13:30	Closing ceremony
16:00	帰路	14:00	帰路

1日目

○Opening Ceremony

児童が英語を使って司会を行った。「Stand straight (気をつけ)」「bow (礼)」等の号令や児童代表のあいさつも英語を取り入れて行った。スタッフの自己紹介後、イングリッシュキャンプで意識して欲しい5つのルールについて伝えた。

複数校合同活動であったため、その後の仲間づくり(アイスブレイク)の活動が有効であった。

○Activity1 「妙成寺見学」

国指定の重要文化財である妙成寺を見学することにより、地域の歴史や文化への理解を深めるとともに、順路に従い建物の名称・建立年・特徴等を国際交流員から英語で説明した。また、各国の歴史的建造物についての紹介等を通して、他国のものの見方・考え方、文化にふれる機会を得た。

※羽咋小・邑知小(6年生)と粟ノ保小・西北台小・瑞穂小(5年生)は、天候不良のため交流の家で「English Mission Game」を実施した。英語でコミュニケーションを図りながら、グループで協力し、課題をクリアした。



【妙成寺見学】

○Activity2-1 「Become a game master!」(6年生)

外国の伝統的な遊びを体験することを通して、国際交流員や参加者同士のコミュニケーションを図るとともに、各国の文化について理解を深めることができた。また、基本的な英語を使って積極的にコミュニケーションを図った。グループの代表者が、あらかじめ体験するゲームの遊び方を国際交流員から教えてもらい、その後、ポイントワード(3語)を利用しながら英語で自分のチームに遊び方を説明した。



【Become a game master!】(6年生)

○Activity2-2 「Enjoy the game!」(5年生)

外国の伝統的な遊びを体験することを通して、国際交流員や参加者同士のコミュニケーションを図るとともに、各国の文化について理解を深めることができた。基本的な英語を使って積極的にコミュニケーションを図った。国際交流員からゲームの遊び方を教えてもらい、グループ内でポイントワード(3語)を利用しながら作戦を伝えたり、仲間を称賛したりした。



「Enjoy the game!」(5年生)

2日目

○Activity3-1 「Entry to a country check」(6年生)

昼食の食材や調理器具等を世界へ買い物に行くという設定をし、国際交流員等が入国審査員になったり、店の店員になったりして、入国チェックしたり、アメリカドルで販売したりした。買い物では、5年生の時に経験した値段交渉の表現を追加して買い物をした。国際交流員とのコミュニケーションから、各国の観光名所や食べ物を聞きとり出国審査の際には、思い出に残った観光名所や食べ物について英語で表現した。

「Entry to a country check」(6年生)



○Activity3-2 「Shopping Game」(5年生)

昼食の食材や調理器具等を国際交流員等が開く店に行き、英語や動作を使って買い物した。初めにアメリカドルについて理解を深め、紙幣や硬貨が日本の円と違うことを確認した。買い物時に使う基本的な英語表現を確認し、練習した後、一人で買い物に行った。前半は初めに確認した表現を使って買い物をし、後半は値段交渉の表現を追加して買い物をした。

○Closing Ceremony

児童が英語を使って司会を行った。参加者、国際交流員、ボランティアスタッフ等で振り返りを行い、お互いに感想を伝え合った。

「Shopping Game」 (5年生)



(3)事業の実施にあたって ＜他団体との連携＞

① 羽咋市教育委員会

平成31年3月より連携協定を結んでおり、本事業の内容等について前年度中に協議検討を行っている。今年度は、能力別活動及び他校との交流を行いたいとの要望を受けて、複数校で小学6年生と5年生に分かれて実施した。実施にあたり、外国人スタッフの確保のために、市内小中学校に勤務するALT等の協力をいただいた。

② 実施小学校

今年度初めて複数校合同実施のため、打ち合わせ日時の調整が難しかった。オンラインや指定された学校に集まり、各担当の先生方とプログラムの内容やタイムスケジュール等について打ち合わせを行った。また、活動プログラムは各学校の実態や要望を聞きながら決めた。班分けや係決め等は、担当の先生同士が相談し、事前交流学习や、当日の始まりの時間に決めてもらうように依頼した。

昨年度までは、事前指導で担当の先生方をお願いしていた「使って欲しい英語表現」を今年度は家庭でも取り組めるように児童が持つタブレット端末からゲーム感覚で学習できるようにした。事前、事後アンケートもタブレットを活用し、学校で行った。

③ 石川県国際交流協会(研究協力者:石津みなと)

児童が体験活動を通して、主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする仕組み作りについて、随時相談した。特に、安心して活動に取り組む環境や自分の考えや気持ちを英語で表現しやすくなる工夫について、専門家の視点からアドバイスをいただいた。第4回では、現地で直接アドバイスをいただいた。

＜熱中症・新型コロナウイルス感染症対策＞

- ①当初1泊2日で計画していたプログラムを日帰り2日間のプログラムに変更した。
- ②持参弁当及び野外炊飯は中止し、食堂利用とした。
- ③参加者の健康観察を徹底した。

＜2日間を通した活動の工夫＞

①使ってほしい英語表現

能力別で実施したため、5年生では昨年同様に「使ってほしい英語の表現15」としたが、6年生では「使ってほしい英語の表現15+5」とレベルアップした。さらに、事前学習で児童がタブレットを使いゲーム感覚で家庭でも取り組めるようにした。事業当日は国際交流員等が、午前と午後の始まりに児童と一緒に練習したため、正しく意味を理解し、いろんな場面で自信を持って使うことができていた。

ありがとう Thank you.	ごめん I'm sorry.	すみません Excuse me.	へえ～ Really?	なるほど I see.
いいねえ! That's good!	大丈夫 No problem.	もう一度言って One more time please.	これは何? What's this?	わかりません I don't know.
～しよう Let's ~.	助けて! Help me.	はい、どうぞ Here you are.	どういたしまして You're welcome.	英語でどう言うの? How do you say ~ in English?
調子はどう? How are you?	次は何か? What's next?	どこにいますか? Where is the △△?	あなたの国はどこ? Please tell me your △△?	あなたの国はどこ? What is your country famous for?

②「リピートしますカード」、「同時通訳カード」等の便利アイテム

班活動で内向的な児童に対して、チャレンジできるきっかけとして便利アイテムを各班のスタッフが常時携帯し、状況に応じて使えるようにした。もう一度、言ってほしいときに使う「リピートしますカード」や英語を日本語に訳してほしいときに使う「同時通訳カード」等、気持ちを伝えやすくする便利アイテムをファイルにまとめた。



③活動プログラムのゲーム要素

2日間を通して、児童一人一人が意欲的に活動できるように主となる3つの活動プログラムにゲーム的要素を持たせた。Activity1「妙成寺見学」では、見どころをクイズ形式にして理解を深めた。Activity2「世界であそぼう」では、国際交流員等から教えてもらった世界の遊びを一緒に楽しんだ。Activity3「現地の食材を探しに世界へ(Shopping Games)」では、買い物リストの全てを決められたお金(USドル)で買うことができるよう、値下げ交渉のフレーズを覚えて使っていた。それぞれの活動にゲーム的要素を持たせることで、どの活動でも意欲的に活動する児童の姿が見られた。また、課題を解決する場面では、相談したり、アドバイスし合ったりする姿も見られた。

④一人一人の会話量の確保

一人一人が国際交流員等と直接会話できる場を確保するために活動内容の工夫をした。

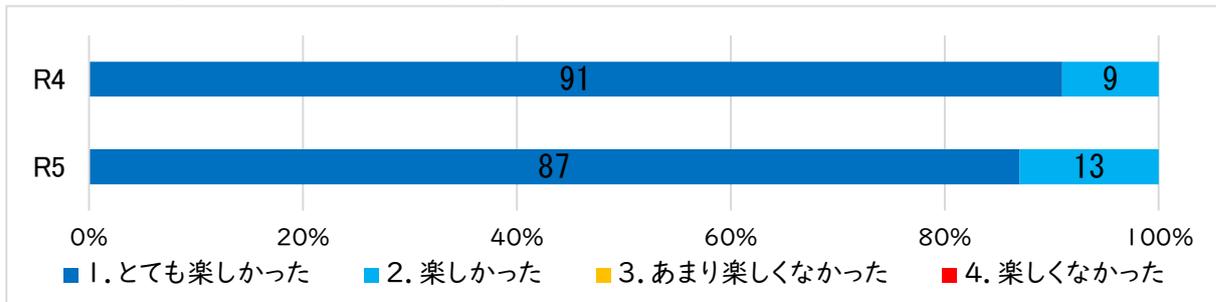
Activity1「妙成寺見学」や「English Mission Game」では、児童一人一人が自分の名前や誕生日、好きな色を聞き合うことでクリアできる課題や、国際交流員等と英語で会話することでクリアできる課題を設定した。Activity2「Entry to a country check」や「Shopping Game」では、出入国審査や買い物は1人で行うことにした。初めは不安な様子の児童も見られたが、回数を重ねることで自信を持って会話する姿が見られた。また、グループ内で待っている児童が買い物場面を想定し、練習する姿も見られた。各 Activity で、一人5回程度は国際交流員等と1対1で会話する機会を、設定することができた。

3 成果と課題

(1) アンケート結果

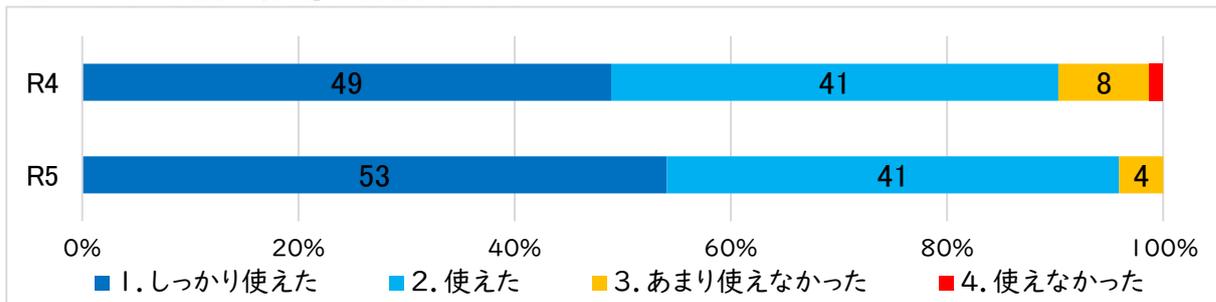
① 事業について

・イングリッシュキャンプは楽しかったですか。



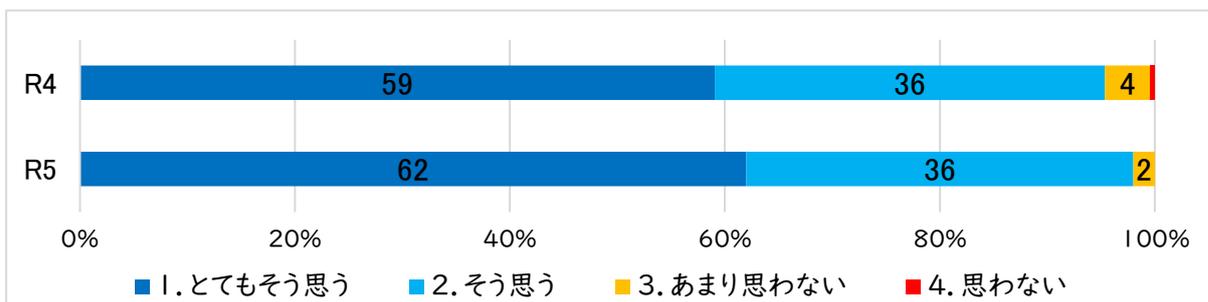
「とても楽しかった」及び「楽しかった」をあわせた肯定的な回答率が100%となっており、楽しく活動できたことがうかがえる。昨年度と比較すると、「とても楽しかった」の割合が減っている。

・「使ってほしい英語の表現」は使えましたか。



「しっかり使えた」及び「使えた」をあわせた肯定的な回答率が94%となっており、多くの児童が英語を使って活動できたことがうかがえる。今年度は事前学習で児童がタブレットを使いゲーム感覚で家庭でも取り組めるようにしたことにより、昨年度と比較すると、「しっかり使えた」の割合が大きく増えたと考える。

・5つのルールは、守れましたか。



「とてもそう思う」及び「そう思う」をあわせた肯定的な回答率が98%となった。学んだことやできるようになったことが多く、主体的に取り組むことでキャンプを通して自分自身の成長を実感できたのではないかと考えられる。

②外向き志向率、グローバル人材志向率

本事業では国際交流に対する意識を調査するために、外向き志向率及びグローバル人材志向率に関するアンケートを実施した。

<外向き志向率について>

外向き志向率とは、日本人参加者に対して、文部科学省が定めた調査項目「日本人として世界に貢献したいと思いますか」「外国の人との交流を通して自分の可能性を広げたいと思いますか」「交流した外国人と将来も繋がりを持ちたいと思いますか」の3項目のアンケート結果を集計したものである。そのうち、肯定的な回答の集計から算出した本事業参加者の外向き志向率は、87%であった。(R3 92%、R4 88%)

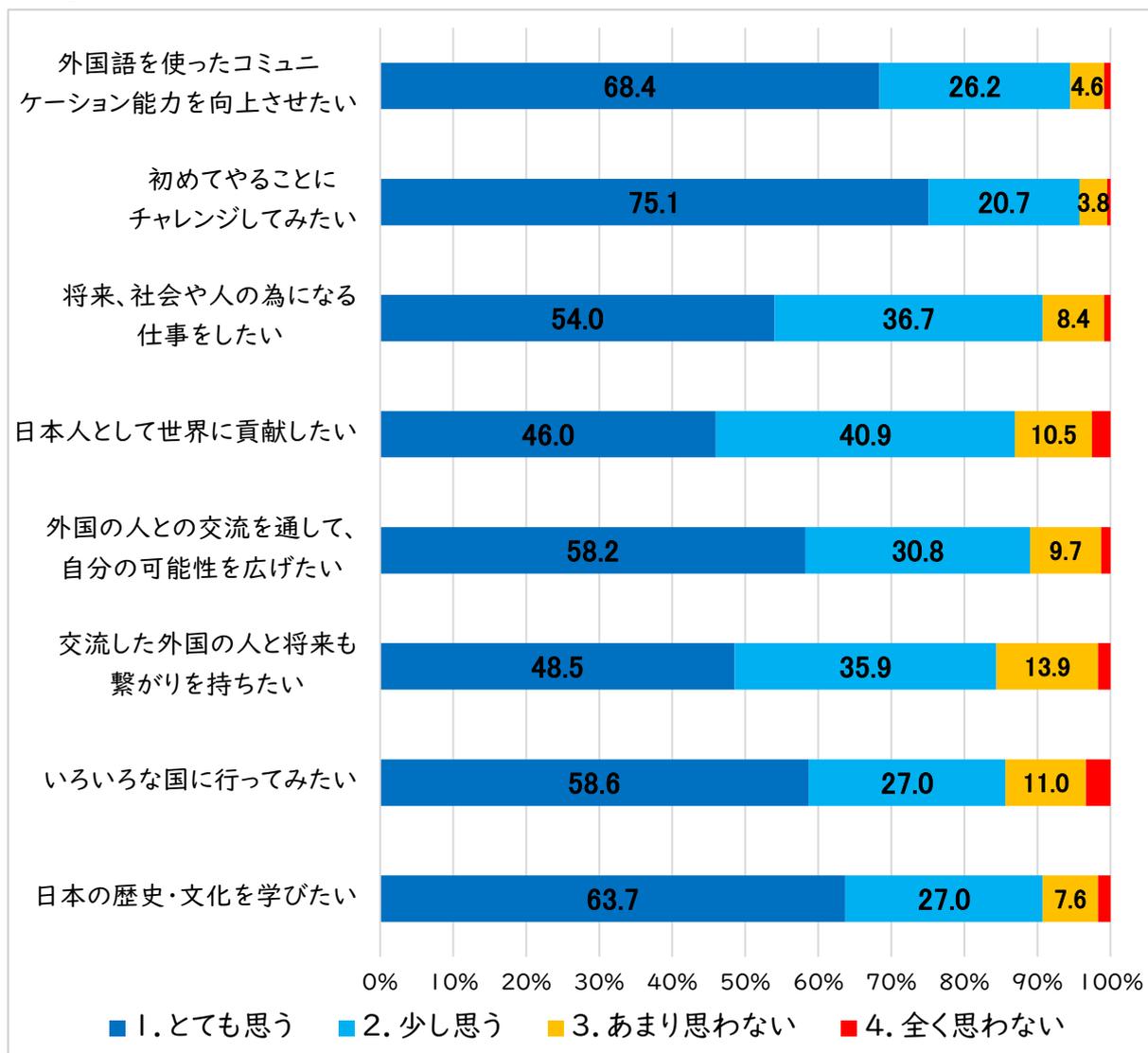
事前と事後の結果を比較すると、事前84%、事後87%と少し向上した。特に、「外国の人との交流を通して自分の可能性を広げたいと思いますか」の項目で「とてもそう思う」の割合が48.1%から58.2%と大きく向上した。

<グローバル人材志向率について>

国立青少年教育振興機構では、上記の外向き志向率調査に加え、独自に語学力・コミュニケーション能力及び異文化に対する理解と日本人のアイデンティティー等を加えた8項目のアンケートを作成し、「グローバル人材志向率」として、平均80%以上の肯定的回答を得ることを目標に国際交流事業を実施している。

本事業においては、事業後のグローバル人材志向率は、90%であった。(R3 93%、R4 92%)

事前と事後の結果を比較すると、事前 89%、事後90%と少し向上した。特に、「いろいろな国に行ってみみたい」の項目で、事前51.9%、事後58.6%と大きく向上した。



③参加者の声（一部抜粋）

【全体】

- ・自分で英語の表現をしたり、チームで協力してアクティビティをしたりすることができたので良かったです。また、いろいろなことに挑戦できました。これからもいろいろなことに挑戦していきたいです。（6年生）
- ・チャレンジの大切さと、一秒の勇気の大事さを知ることができました。チャレンジの大切さでは、自分が出不来ないと思っていることでも、挑戦することで、自分の知らなかったことを学べて、自分の成長にもつながるので、これからも日常生活や学校生活でもチャレンジしていきたいです。そして、一秒の勇気の大事さでは、いろいろなことに活かせると思います。例えば、なにかを決心するときや重要な物事を決めるときにも一秒の勇気を大切にしたいです。（6年生）
- ・班の人とも仲よくなれて嬉しかったし、妙成寺見学や世界のゲームやショッピングゲームをしてとても楽しかったです。（5年生）
- ・瑞穂小、西北台小との生徒と仲を深められてよかったです。最初は緊張して話すことが難しかったです。今度は自分から話にいきたいです。多種多様な英語を知れたり、海外のことを知れたりしました。特に、アメリカ合衆国のすしの言い方が、日本とは全然ちがうことに驚きました。来年の English camp が楽しみです。（5年生）

【妙成寺見学（English Mission Game）】

- ・妙成寺は、知っていると思っていたけど、見たことのないところや英語で場所の説明をしてもらったことからもわかったような気がして楽しかったです。また、妙成寺には、重要文化財が 10 個もあってすごいところが羽咋市にあるとわかって誇らしく思いました。（6年生）
- ・私は、Mission Game が楽しかったです。これからの生活には、クリアボイス、スマイル、リッスン活かしていきたいです。（6年生）
- ・ミッションゲームでは、チームの人とミッションクリアすることができました。そして、このゲームで詳しくチームの人の誕生日などがしれました。来年のイングリッシュキャンプもたくさんの人と仲良くなりたいたいです。（5年生）

【Become a game master!（6年生）】

- ・楽しかったことは、世界で遊ぶののボッチャのようなゲームです。なぜなら「投げる」、「たたかう」、「近い」などの言葉を習えたのでそれを活用していきたいです。
- ・世界の遊び体験が楽しかったです。自分の知らない遊びがたくさんあってワクワクしました。英語でコミュニケーションすることが難しかったです。なので、これから英語の勉強を頑張ろうと思いました。

【Enjoy the game!（5年生）】

- ・僕は世界の遊びのモルックが一番面白かったです。相手のチームととても接戦でとてもハラハラしました。またこのような世界の遊びに触れていきたいです。
- ・いろいろな国の遊びができて面白かったし、楽しかったです。今まで分からなかった英語が分かったので、これからも使いたいです。

【Entry to a country check（6年生）】

- ・材料を買うゲームではお世辞を言ったり、値引きしてもらったりして、お金のことも考えながら買い物できた。帰国離陸の英語もわかったので良かったです。最後のイングリッシュキャンプも楽しく「チャレンジ!!」できたので良かったです。
- ・わたしは、まだ、一回も海外に行ったことがなかったので、パスポートのやり取りがしれたので、海外に行くのが楽しみになりました。

【Shopping Game（5年生）】

- ・ショッピングゲームでいろいろな英語を話せてとても楽しかったです。次は English キャンプで泊まりたいなと思いました。
- ・わたしは、食材を集めるのが楽しかったです。グループのみんなで、お金を出して欲しい物を英語で言って買うからいつものお買い物ではなくて、外国のお店に行ったような感じで楽しかったです。

【スタッフ（国際交流員・学生）との交流】

- ・今まで知らなかった英語も外国人と触れ合ってたぶん知れた。もし、外国に行くことがあったら知った英語を使ってコミュニケーションをとりたいです。(6年生)
- ・外国人と話せたのがとっても楽しかったです。また外国人と喋ってみたいなと思いました。中学生になったら英語を本格的にやっていくので、そのときに生かしたいなと思いました。中学校にいても英語を頑張っ勉強します。単語などもたぶん覚えて、外国人のリアムさんともっとたぶん喋りたいなと思いました。(6年生)
- ・食材の買い方が分かったから、英語の先生と会話できるように、さらに努力して、外国人の方々と喋れるようになりたいです。(5年生)
- ・私は初めてあった人と、初めてじゃない人がいて仲良く慣れて良かったです。そして、外国のナッシュ、スザン、クミコ、マッシュー、レイ、セレステとも仲良く優しく話してくれて、言えてよかったなと思いました。(5年生)

【自己成長】

- ・英語を少しだけ話せるようになった。はじめは、全然英語を喋れなかったからです。これから頑張りたいことは、英語の時間で英語を少しでも多く喋ることです。(6年生)
- ・覚えた英語が増えたので嬉しかったです。いろんなことに挑戦して自分の限界を超えてみたいと思いました。(6年生)
- ・色んな国の様々な遊びが知れて、友達や家族とやってみようと思いました。イングリッシュキャンプを通して、他の国の色々な事を調べて、英語を学んで、外国に行ってみたいと思いました。(5年生)
- ・知らなかった英語をたぶん知れたし、あんまり関わらなかった人ともたぶんしゃべれたので良かったです。これから、英語をもっと勉強して楽しみたいです。(5年生)

④引率者の声（一部抜粋）

- ・3校合同で活動することができ、他の学校の児童と関わる機会があり大変良かった。(6年生)
- ・国際交流員の方やボランティアの方が児童と多く関わってくださったことで、活動が充実したものになっていた。(6年生)
- ・英語を伝えるよう工夫を凝らした活動が多く、英語を使おうとする場面がたぶん見られた。(6年生)
- ・いろいろな国の交流員の方と活動を通して関わることで、多様な国の文化にふれることができた。(5年生)
- ・他校との合同での開催ということもあり、よい緊張感の中で学び、新たな刺激をたぶんもらうことができました。たぶんの成果もあり、貴重な経験になりました。(5年生)
- ・いろいろな国の交流員の方と活動を通して関わるので、多様な国の文化に触れることができた。(5年生)

(2)成果

- ①外向き志向率が87%、グローバル人材志向率が90%と高い数値を示していることから、本事業の活動プログラムは児童の外国語でのコミュニケーションに対する興味・関心を高めるとともに、「外向き志向」向上に有効であったと言える。
- ②複数の小学校が合同で実施したことにより、近隣の同じ小学生と仲が良くなることに大きな喜びを感じることができた。同様に、国際交流員等への関わりも児童が主体的になったと考える。
- ③能力別活動を学年別としたことは、児童や引率者にとっても分かりやすく取組みやすかった。
- ④「使ってほしい英語の表現」を各小学校で事前指導したり、タブレット端末を使いゲーム感覚で取り組んだりしたことにより、「しっかり使えた」及び「使えた」児童の割合が増えた。
- ⑤児童が国際交流員等と1対1で会話する機会を意図的に設定したことで発言の機会が保証された。これらのことにより、英語でコミュニケーションをすることの達成感を感じ、自信を持つことができたと考えられる。

《研究協力者のコメント》

◇事業連携について

- ・本プログラム（「HAKUI キッズイングリッシュキャンプ」）を実施するにあたり、国立能登青少年交流の家、羽咋市教育委員会、市内小学校 5 校が連携する体制構築ができており意義あるプログラムになっている。
- ・キャンプに参加する5、6 年生がキャンプ参加のための事前活動を経て当日を無理なく迎えることができている等、3者の連携が教育効果を高めることにもつながったと考える。

◇プログラムについて

- ・プログラムを大きく3活動（1 日目午前を「妙成寺」、1 日目午後を「世界の遊び」、2 日目午前を「買い物」）に分けたことで、参加生徒が英語活動のハードルに対し尻込みすることなく興味関心を持ち、また集中力を切らさず参加できたと思われる。有効なプログラムであったと、アンケート結果からも伺える。

◇異文化理解とコミュニケーション能力の向上について

- ・「世界の遊び」や「買い物」の実技を通し、異文化へ関心が示されていた。体を動かしながら異文化理解やコミュニケーションをとる有効性が確認されたと言える。

(3)課題

- ①「妙成寺見学」は野外での活動のため、天候によって実施できないことがあった。
- ②近年は9月に猛暑日が多くあり、事業を日帰りに変更することが続いている。今回は野外炊飯も中止となった。そのため、実施時期を検討する必要がある。
- ③班分けについて、能力別を取り入れたが、学校側は人間関係を重視して安心した生活ができる班を希望している。
- ④交流の家で行われる事業と各学校での授業の連続性をどのように持たせるか、主体的・対話的な学びを深める連携が求められる。
- ⑤各回に必要なボランティア数を確保することができず、施設職員の負担が多くなった。来年度はボランティア募集について公募時期等を早めに行い、確保する必要がある。

《研究協力者のコメント》

◇異文化理解を「深める」、コミュニケーション能力を「高める」ための工夫について

- ・異文化理解を「体験する」ことはアンケート結果からも十分できたことがわかる。今後は理解を「深める」ため、またコミュニケーション能力を「高める」工夫に進んではどうか。具体的には、5、6 年生が活動の振り返りをする活動をプログラムに入れておく、「異文化」との共通点・相違点へ注目する仕掛けを準備しておく、複数年で取り組みが完成する仕組みを作る、など行えるのではないか。

(例)「妙成寺の活動」

学年	内容
4 年生時	学校単位で「妙成寺」について探究活動を行う（羽咋小では行っているよう）
5 年生時	国際交流員が「やさしい英語」やイラストなど活用して妙成寺について説明し、5 年生はその内容理解に挑戦する
6 年生時	6 年生がグループで分担しながら「やさしい英語」で国際交流員に妙成寺を紹介できるようになることを目指す

(例)「世界の遊び」

学年	内容
5 年生時	体験を重視する。競技の説明は「やさしい英語」で行う
6 年生時	日本の遊びとの共通点や相違点を考え、その背景となる文化について考え「発表」、「共有」する

※文化背景を考える際には、国際交流員や学校の先生にインタビューを行う等、他者とのコミュニケーションを積極的に奨励してはどうか。この時の「発表」、「共有」活動は日本語で行なってかまわない。また、場合によっては「発表」「共有」は、キャンプ終了後各学校の英語の時間に行ってもよい。

◇役割分担の工夫について

- ・ファシリテーター、司会進行、グループリーダーと運営を三層にわけ、役割分担を明確にすることで、英語シャワーの環境づくりと参加する5年生、6年生の言語理解のいずれをも担保する。

(例)

全体のファシリテーター	国立能登青少年交流の家スタッフ	必要に応じ日本語・英語を使用しながら参加小学生のモチベーションやグループ作りをはじめ1泊2日の活動全体の環境づくりを行う
3活動それぞれの司会進行	ALT(国際交流員)が一人ずつ担当	司会進行者は、「やさしい英語」のみで話し、イラストやレアリア、繰り返し、ティーチャートークといった第二言語教育の知見を活用して進める
グループリーダー	国際交流員	各グループのリーダーを務め、司会者の話や活動内容についてグループの小学生がわからないときは、英語ないし日本語でフォローする

※9月22日(金)「栗ノ保小・西北台小・瑞穂小(5学年)」の二日目、国際交流員による各国の紹介を行った際に、イギリスについてマシュー先生が「やさしい英語」で紹介したケースが参考になる。

◇プログラムの質の充実のために

- ・一層の連携強化が求められると考える。

(1) キャンプと通常授業との連携

「HAKUI キッズイングリッシュキャンプ」の1泊2日が児童にとって、学校での授業とどのようにつながるか検討してはどうか。そのためには、通常授業の見学やALT、クラス担任との情報交換を行うことが必要になると思われる。

(2) 運営スタッフや学校の先生間の連携

当日の運営について、国立能登青少年交流の家スタッフと国際交流員、ボランティアスタッフ、学校の先生との密な情報交換が求められる。グループ活動が中心になり、またグループが英語のレベル別に作られている(とてもいいことだと思います)ことから、グループリーダーとなる国際交流員、ボランティアスタッフの存在は大変重要になる。プログラム全体を理解した上で、運営スタッフや学校の先生が個別に対応してもらえるよう連携が必要になる。

◇今後について

- ・各活動の「やさしい英語」による説明文づくり
- ・イラストや写真等「英語シャワー」を補助するツールの準備
- ・学校でおこなわれる英語教育のカリキュラム共有や授業見学による3者の共通理解促進